

狭山が発祥の地

童句

手刀を まねて受けとる お年玉

大谷木浩子

正座して 待てば祖母から

お年玉

本告愛子

肩車 頭の海を 初詣

芝田恵美子

祖父からの 解説受ける 初みくじ

渡川 誠

強いねと 言われがまん

初湯かな

堀田安代

父母の影 ぼくを中にし 初もつで

創始者・土家由岐雄



池原 昭治の

さやまの冬会本

57



手づくり遊び(市内)

狭山周辺では、むかしから「竹おじやみ」と呼ばれる子ども遊びがありました。おじやみは、竹をわって細長く切ったもので、長さが約三十センチメートル、はばが約一・五センチメートルで四、五人で遊びます。ところによつては、「さんがら」ともいわれ、竹なんど(新潟県)、七つ竹(京都府)、ちやかちやか(宮城県)などとも呼ばれています。この遊びの歴史は古く、江戸時代の初期のころより始まったといわれ、慶長年間(一五九六〜一六一五)のころはすでに「竹がえし」と呼ばれていたそうです。

平たい青竹のへらが手のひらと甲にあやされて宙に舞う、竹と竹とがぶつかりあって、ちやかちやかと軽やかな音が子どもたちの心をはずませます。また、竹馬遊びは、平安時代の「法然上人絵伝」にもでてくるほど古くからの遊びで、葉つきの竹にまたがってかけ回っていました。

竹馬のことを「タカンマ」、「タケンマ」とも呼び、子どもにとつてはかなり高度で技術のいる遊びです。段々と足をのせる横木をせりあげて、高いへいやはしこのうえから乗つては、まるで天狗さまにでもなったようにノッシノッシと歩いたり、片方の竹を背に乗せてけんけんをして歩いたりします。

竹おじやみや竹馬づくりは、すべて自分たちの手作りです。失敗しては、年長の子どものマネをして少しずつうまく作れるようになっていくのです。

AET CORNER



Robert Russell(AET)

I love my mamachari!! I bought it secondhand in Kichijouji two years ago. It cost ¥8,000 and took two days to ride home to Kawagoe. Since then it has cost only a little time and money. Once, when I was teaching in Kashiwabara, I was late for work because I had a flat tyre(honest), but I fixed it myself. Like most British children of my generation my father taught me how to fix a flat tyre. I never use bicycle repair shop. In Sayama there are too many traffic lights and cars. On my mamachari(which I love) I don't care, I can use the pavement or Irumagawa cycling road. But, there is a problem: people who walk forget that bicycles must use the pavement, too and I have to ring my bell all the time. In my country bicycles are not allowed on the pavement. Also, they must have a front and back light. When I was a teenager in my home town, Wisbech I got drunk and rode into town with no lights. The police would stop me and make me walk. When they went I'd ride but sometimes they'd hide and catch me again. The police in England are sneaky and I don't love them: but I do love my mamachari!!

私は、自分のママチャリが大好きです。2年前に、中古で8,000円で買いました。柏原中に通っていたとき、一度、途中でパンクして遅刻しましたが、自分で直しました。私の世代は、父親から自転車の直し方を教えてもらっています。だから、修理は店でなく、自分でします。狭山市には信号や車が多いですが、大好きなママチャリでは、気になりません。歩道と入間川サイクリングロードを通りますから。困ることは、歩行者も自転車も歩道を通るので、いつもベルを鳴らさなければなりません。イギリスでは、自転車は歩道を通れませんし、ライトは前後につけなければなりません。10代のころ無灯火で町に行くと、警官に止められて歩かされました。警官が行ってしまうと、また乗るのですが、時々かくれていた警官にまた捕まってしまうこともありました。イギリスの警官は苦手ですが、ママチャリは大好きです。(ロバート先生の要約)

※80 この広報紙はリサイクル推進のため古紙配合率80%の再生紙を使用しています

お・茶・香・る・ま・ち



[狭山市広報] VOL.534

発行日 / 平成12年1月10日(毎月10・25日発行)
 発行 / 狭山市
 編集 / 狭山市企画総務部広報課
 〒350-1380 埼玉県狭山市入間川1-23-5
 TEL 042-953-1111(内線7161)
 FAX 042-954-6262テレホンガイドさやま ☎0120-460-380
 ホームページアドレス http://www.city.sayama.saitama.jp/